

新聞掲載

奄美新聞 R4.8.3

認知症の知識・接し方学ぶ

東城中でサポーター養成講座

奄美市住用町の東城中小学校(永井孝典校長、児童生徒28人)はこのほど、東城スポーツクラブの子どもと保護者約30人を対象に「認知症サポーター養成講座」を行った。認知症について啓発活動を行うキャラバン・メイトの認証を受けた、平井雅也さんの講話や、保護者らによる寸劇、絵本の読み聞かせを通して、認知症の知識や認知症の人との接し方を学んだ。

前半は、平井さんの講話「認知症の症状について」や保護者らによる寸劇「まんじゅうがない」により、認知症の症状などを学び、後半は、おばあちゃんの認知症の進行と向き合う、孫の思いを描いた絵本「大好きだよキョちゃん」の読み聞かせや平井さんの講話「認知症の人のかかわり方」により、認知症の人との接し方について理解を深めた。

最後に児童生徒らに、認知症キッズサポーターの「認定カード」と「オレンジリング」が手渡された。

絵本の読み聞かせを行った、市住用総合支所市民福祉課の雪田倫代さんは「住用町は高齢化率が高い。(認知症)は特殊な病気ではなく、誰にでもあること。周りの手助けによって、住み慣れた地域でできるだけ長く、暮らせるようにしたい」と語った。

講師を務めた平井さんは「子どもに分かりやすく、専門用語を使わないように工夫して

る。家族がそろって長く暮せるようになって欲しい」と呼び掛けた。政袖月さん(中学2年)は「おばあさんがいるので、認知症になっても話しかけたり、長く一緒にいたい。症状など理解できて良かった」と話した。

